

全国学校・園庭

# ビオトープコンクール 2025

## 報告書



公益財団法人

日本生態系協会

## はじめに

公益財団法人日本生態系協会  
会長 池谷奉文



近年の子どもたちを取り巻く環境は、時代と共に著しく変化をしています。例えば、スマートフォンの普及により生活が便利になった一方で、自宅で一人で遊ぶ子どもも多くなっているようです。子どもたちが戸外で自然体験する場と機会は、明らかに減少しています。このような状況が世の中の当たり前となりつつあります。

私たちの協会が、1999年から隔年で、学校・園庭ビオトープのコンクールを開催し続ける理由には、自然体験が子どもたちの健全な発達を促すうえで無くてはならないものであると考えるからです。学校・園庭ビオトープでは、友達と一緒に、生き物に触れるなどの様々な体験を通じて、五感が刺激され、豊かな感性、思いやりの心、生きる力が育まれます。子どもたちの癒しの場にもなっていると報告もあります。こうした体験の場が身近にあることで、今の子どもたちを取り巻く環境の改善に大いに寄与していくのではないのでしょうか。

14回目(28年目)の今回も、子どもたちが地域の生き物のために試行錯誤しながら自然を取り戻す活動や学校・園庭ビオトープを拠点にして築かれたコミュニティ、そしてそこで生まれた絆に、たくさん出会うことができました。

持続可能な社会の実現に向けて、学校・園庭ビオトープが、体育館や図書室と同じように全ての学校や園に設置されることを願い、今後も引き続き支援していきたいと思います。

## もくじ

ページ 内容

02 はじめに

03 学校・園庭ビオトープとは？

学校・園庭ビオトープの取り組みのポイントは？

04 上位5賞の事例

文部科学大臣賞 湖西市立知波田小学校(静岡県)  
環境大臣賞 群馬県立藤岡北高等学校(群馬県)  
国土交通大臣賞 西宮市立山口中学校(兵庫県)  
ドイツ大使館賞 学校法人長津田学園ながつた幼稚園(神奈川県)  
日本生態系協会会長賞 滋賀大学教育学部附属幼稚園(滋賀県)

09 優秀賞・学校・園庭ビオトープ賞

10 全国学校・園庭ビオトープコンクール2025 概要

秋篠宮皇嗣殿下のおことば

ポスター発表 参加校・園

寄付のご報告とお願い

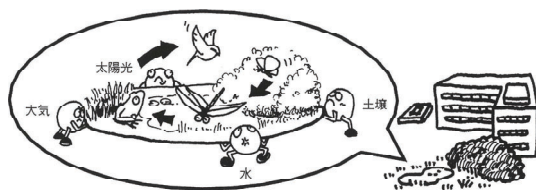
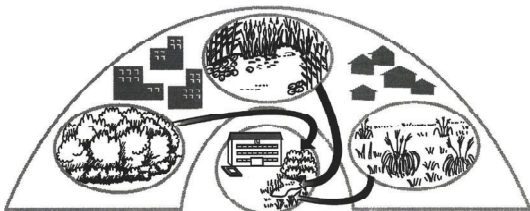


## 学校・園庭ビオトープとは？

BIOTOP<sup>ビオトープ</sup>とは、「自然の生き物がくらす空間」という意味で、すなわち、草地や水辺、樹林など自然のことです。

学校・園庭ビオトープは、教育や保育のために、学校・園の敷地や近隣に設ける「地域の自然」です。

ここでは、地域の自然と同様に、誘致や導入した自然の生き物に餌をあげなくとも生きていくことができるよう、環境を整えていくことが大切です。



学校・園庭ビオトープは、子どもたちや生き物に、以下の「場」を提供します。

- 豊かな感性や表現、思考力などを育む場
- 地域の自然・生き物への関心を育む場
- 自然と共生する地域づくりにむけたシチズンシップ教育\*の場
- 学校・園と地域の多様な主体をつなぐ場
- 自然の生き物の生息地、移動する際の中継地としての場

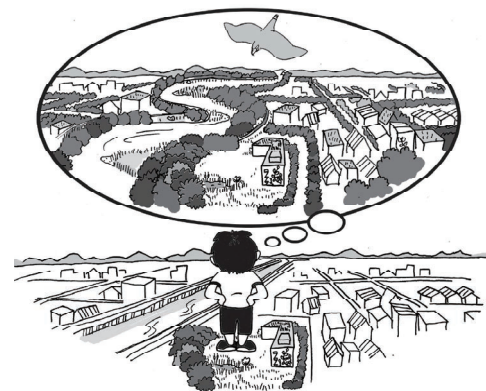
※ シチズンシップ教育

市民一人ひとりが社会参加をしていくために必要な能力を身に付けるための教育

## 学校・園庭ビオトープの取り組みのポイントは？

学校・園庭ビオトープの価値を高めるために、以下に留意することが大切です。

- 地域の自然(見た目や導入する植物等)を真似る・取り込む
- 園児や児童生徒・学生が、主体的に関わる
- 様々な教科や領域で計画的に活用を図る
- 地域の多様な主体(他校・園も)との連携協働の体制を築く
- 校(園)内外において持続的な管理活用の体制を築く
- 地域の自然や、自然と共生したまちづくりに視野を広げる





## 文部科学大臣賞 湖西市立知波田小学校（静岡県）



特に体験活動や学習活動の内容・成果で秀でているものが表彰されました。

児童の地域本来の自然との触れ合いを望む地域住民の願いをもとに、2001年に地域の耕作放棄地を学校ビオトープとして整備。学校ビオトープを、地域の自然環境の課題を考える場と位置づけ、継続的に学習に生かしています。



### 知波田小学校ビオトープの特徴

1. ビオトープに生活排水を取り入れ、水質浄化をしている。  
水質浄化には、竹炭や木炭を使っている。  
水質浄化には、不要となった風呂おけを再利用している。
2. 放き地を地域の皆さんが学校ビオトープとして改修した。  
子どもたちに自然とふれ合う場をつくろう。  
たれでも自由に自然とふれあえる場にしよう。  
◎手作りベンチがあるよ。

### ぼくのビオトープ再生計画の取り組み②

みんなと助け合って、水路の泥を除去したり、外来種のオオフサモなどを取ったりして、きれいにするのができた。もっと自然を守っていき「ウナギがいたよ。」

### 休耕田を活用した学校ビオトープ

地域の方々の「子どもたちの身近な場所で、自然の動植物とふれあう場があると良い」という思いから、近隣の休耕田を活用してつくられました。ビオトープの中央には、浜名湖とつながる小水路が流れています。ドジョウやウナギ、カワヨシノボリが上がってくることもあります。

ビオトープの近くには、2級河川の今川が流れており、アユや環境省レッドリストの絶滅危惧IB類に指定されているナガレホトケドジョウ、カワムツ、サワガニなどもすんでおり、ビオトープと比較しながら、小学校の授業でも活用しています。

### 地域の自然環境の問題を考える場

低学年では、生活科の中で体験を通じて季節の変化を見つける場となっています。中学年では今川の自然を学ぶ単元や理科の昆虫の単元で活用しています。高学年は、理科のメダカの学習や生物同士の関わり、また、地域の自然環境における問題（外来種等）について認識を深める場として位置づけて、これからの自然環境保全のあり方について探究学習をする機会とするなど、SDGsに向けた課題解決の学びにもつなげています。

また、知波田小学校は、秋に南方へ下るアサギマダラの渡りのルート上にあり、学校ビオトープにも呼びたいという子どもからの発案で、学校の花壇に、近隣の公園から移植した吸蜜源の在来野草フジバカマを植えました。その結果、学校ビオトープ内でもアサギマダラの飛来が確認されています。

### 地域が学校ビオトープを支える

学校ビオトープがつくられてから、今年で24年目となります。長く維持できているのには、地域住民や同校卒業生などからなる2つの支援団体の存在が欠かせません。学校の負担軽減を考えながら、草刈りなどルーチン的な維持管理を長年担っています。また、教育支援員が学校と地域を結ぶ役割を果たしています。

地域の人々が子どもの成長と地域の自然を見守り続けています。

QRコード  
YouTube  
各校・園の発表

\* 上位5賞は発達段階を問いません。また、上位5賞の位置付けに優劣はありません。



## 環境大臣賞

### 群馬県立藤岡北高等学校（群馬県）



特に野生の生きもののすむ「ビオトープ」の質で秀でているものが表彰されました。

地域で絶滅に瀕するヤリタナゴの保全を目的に、学校を核に地域の関係主体との連携協働を図っています。地域の農地を借り受けて、ビオトープの拡充とヤリタナゴを題材とした地域活性化を念頭に取り組みが進められています。



### 地域の市民団体とヤリタナゴの生息環境を創出

藤岡市の天然記念物に指定されているヤリタナゴは、河川改修や圃場整備などにより、1990年代に群馬県のレッドリストで野生絶滅に指定され、2016年以降しばらく確認できない状態が続いていました。

そうした中で、2019年は地域のヤリタナゴ保全の市民団体からの依頼を受けて、ヤリタナゴの保全を目的に、地域の耕作放棄地を借り、学校ビオトープをつくることになりました。学校ビオトープは、ヤリタナゴを保護・増殖するための池のビオトープと有機無農薬米をつくるビオトープ水田にゾーニングがなされ、また、隣接する公園を地域の憩いの場と位置付け、全体を「ヤリタナゴの里」と呼んでいます。このヤリタナゴの里は、今後も拡大をしていく予定です。

## 環境土木科の取組み



### 環境に配慮した土木技術者を育成

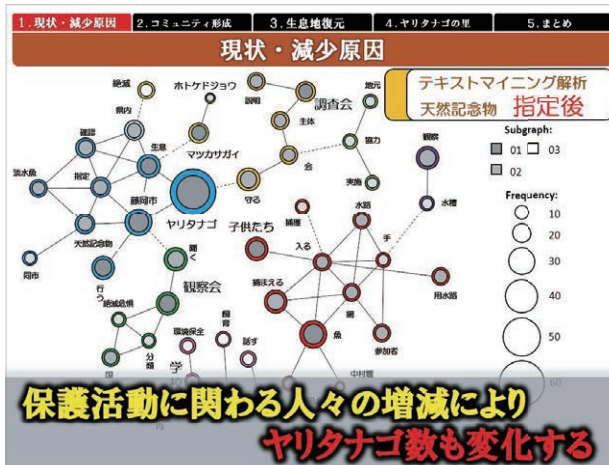
学校ビオトープには、環境土木科環境工学コースの生徒が学校のバスで現地へ赴き、維持管理を実施しています。生徒は、維持管理をしながら、測量など環境工学コースに求められる教育課程を実地で学びます。同校では、学校ビオトープとの関わりを通じて、環境に配慮した土木技術者の育成をしています。

また、部活でも委員会でもない、学科を超えて生徒のサークル的な集まりが生まれ、ビオトープの普及活動などに積極的に携わっています。

### 学校が官民学の連携の拠点

同校の活動が始まり、担当教諭の調整により、「ヤリタナゴ懇談会」が立ち上がっています。懇談会の会長は同校校長、ほか保護団体4団体、県水産試験場、藤岡市文化財保護課、森林課、群馬県農村整備課、下戸塚環境保全協議会、地域住民等が参加し、年4回ほど進捗確認や意見交換が行われています。

また、卒業生の中には、ヤリタナゴ保全の市民団体に入会した生徒もあり、高齢化が進む同会に新しい世代が加わり、同校と地域の新たなつながりが生まれています。





## 国土交通大臣賞 西宮市立山口中学校（兵庫県）



特に人と自然が共存するまちづくりにつながる観点で秀でているものが表彰されました。

活動の軸は、全教員と生徒有志が所属する「モリアオガエル保存会」。学校ビオトープや地域のため池において、地域の希少種モリアオガエルの生態研究や保護増殖を行い、活動で得た知見を地域に発信しています。



### 半世紀にわたるモリアオガエルの保護

学校内で組織された「モリアオガエル保存会」が中心となり、モリアオガエルを指標に、学校ビオトープや地域のため池において、「生態・行動研究」「保護増殖」「情報発信」等を展開しています。

地域におけるモリアオガエルの保全は、1968年から理科部が中心となり始まりました。2017年、部員減少で理科部が廃部となり、当時の校長先生が中心となってモリアオガエル保存会が発足しました。保存会には、全教員と希望する生徒が所属します。現在、全校生徒の約5分の1（約80名）が所属しています。

### 自分たちがつくったビオトープ

学校ビオトープは、「モリアオガエルの生態をもっと知りたい」という生徒の意向で設置されました。生徒自らが、スコップで穴を掘ったり、ゴムシートを張ったりという作業を行ったので思い入れがあります。

学校ビオトープができたことで、飼育より自然界の方がオタマジャクシの成長が著しく早いなど、様々な発見がありました。

### 地域の自然のサテライト

地域には農業用のため池が10箇所ほどありましたが、開発等により、現在は、6箇所になってしまいました。モリアオガエル保存会は、モリアオガエルのため、地域のため池の保全の啓発にも努めています。

地域のため池で見つけた両生類の同定に、淡水生物の域外保全センター「びわこベース」の協力を得ました。また、助成金を使って開発されたばかりの1gの発信機をつけ、モリアオガエルの生態を調べ、これまでの文献にあった距離を大幅に上回り、最大650m以上移動しているなど、新たな発見をしています。

保護者や地域住民、専門家などさまざまな大人の協力を得ながら、新しい発見をし、新たな興味・関心へとつながっています。



## ドイツ大使館賞

# 学校法人長津田学園 ながつた幼稚園(神奈川県)



特にユニークな学習・体験活動を行っているものが表彰されました。

園に隣接する放置された斜面林を取得し、生物がくらしやすい環境へと整備。教育活動の大部分を、ビオトープを題材に展開するとともに、園内外の教員を対象に研修を行うなど、園庭ビオトープ普及の拠点になっています。



### 裏山とつながる園庭の自然

園に隣接する放置された斜面林を取得し、鳥や昆虫が好む様々な種類の在来の草や木を補植しました。

あわせて、園舎付近に、トンボなどのために池をつくりました。斜面林や池が一体となり、大きな園庭ビオトープになっています。これらの取組が認められ、2023年に幼稚園としては全国で初めて環境省の自然共生サイトに認定されました。

ビオトープの整備とあわせて、園内で見られる動植物の写真や季節の変化などを発信する「ビジターセンター」のような施設も設けられました。

### 園児の自然への興味が保護者に波及

普段の遊びの内容は、園児が自ら選びます。年に2回ほどは、全員参加でネイチャーゲームをします。その中で、葉っぱの裏には、生きものがいる、落ち葉のふかふかの感触、風の音・匂いなど、五感を使うような内容にしています。

入園時のアンケートでは、およそ9割の保護者が自然があることを入園の理由に挙げています。また、保護者からケガや衣服の汚れに関するクレームはありません。園長先生は保護者の皆さんに繰り返し、「子どもは転んでなんぼですよ」と伝えているとのこと。

### 園内外の教員が学ぶ場

このビオトープが好きだという教員も多く、自然豊かな環境は、職場としての特色にもなっています。同園では、「こども環境管理士」や「ビオトープ管理士」の資格を持つ教員は基本給を上げ、資格取得を奨励するなど、子どもが自然の中で遊び学ぶ環境の質を高めるように努めています。また、同園は、横浜市の要請を受け、3年前から新任教員研修の自然に関する単元を学ぶ会場になっています。

生物多様性が豊かで地域のネイチャーポジティブに貢献する場、同時に、子どもだけでなく大人も成長する場となっています。

### ネイチャーポジティブの取組み:生きものが集まる仕組みがいっぱい



多くの方が参加する観察会。卒園した小学生も、自然好きな保護者も興味津々。





## 日本生態系協会会長賞 滋賀大学教育学部 附属幼稚園(滋賀県)



特に地域とのパートナーシップの観点で秀でているものが表彰されました。

園児にビオトープ整備を提案するなど、園児が主体的に関わる工夫をしながら、園庭につくる琵琶湖の自然をコンセプトにビオトープを整備。整備にあたっては、保護者とも連携協働し、園児に学びの機会を提供しています。



### 副園長が園児に提案

園庭ビオトープづくりは、副園長が園児に「みんなで琵琶湖の自然を園庭につくらないか」と提案したことから始まりました。穴掘りも遊びの一環、園児が持つ小さなスコップではなかなか掘り進まないものの、砂場用の一輪車も駆使しながら20cmくらいの深さまでは自分たちで掘り進め、その成果に喜びを感じていました。園では、園児がワクワクしながら、主体的に関われるように促しました。

土中から、ガラが出てきたら、保護者にバトンタッチしました。保護者も子どもたちのために一生懸命です。琵琶湖の底土からつくられた「びわ湖産の土」を入れ、2023年に園庭に小さな琵琶湖ができあがりました。小さな琵琶湖には橋がかけられ、周辺には草地が設けられました。

### 小さな琵琶湖を通した気づき

園児は、橋の上から、池の中をよく覗き込んでいます。園にあるデジタル顕微鏡で池の水を観察することもあり、池の中にはミジンコなどの小さな生き物がすんでいて、ほかの命を支えていることも理解しています。

ビオトープの池に張った氷で遊んだ後、「氷が溶けたらこの中にも生きものがある」と、その水をちゃんと池に戻しに行きます。カエルの死骸から、ほかの生きものへのつながりを想像するなど、目に見えない世界の命を感じています。

### ビオトープを通じて幼少期の基礎づくり

園庭ビオトープは、幼児教育の研究活動にも積極的に活用されています。ビオトープを通じて、「いのち」「ともだち」「ちがいがい」「だいじ」「からだ」「かんがえる・くふうする」などについて、科学する心の芽生えを育てています。SDGsの視点も取り入れ、活動を通じて、自ずと命を大切にしたり、自分と相手の違いを尊重するようになってきているとのこと。

園児は、園庭ビオトープを通して、さまざまなことを学んでいます。



## 👑 優秀賞

上位5賞に次ぐ特に優れた取り組み 16校・園

### ★ 幼稚園・保育所・認定こども園

(学)坂本学園 大地太陽幼稚園(北海道) 大阪市立瓜破北幼稚園(大阪府)  
 (福)砂原母の会 幼保連携型認定こども園 そあ(東京都) 富田林市立青葉丘幼稚園(大阪府)  
 (学)平岡学園 平岡幼稚園(神奈川県) 富田林市立錦郡幼稚園(大阪府)

### ★ 小学校・中学校・高校

福島大学附属中学校(福島県) 安曇野市立豊科南小学校(長野県)  
 栃木県立那須拓陽高等学校(栃木県) 豊田市立中金小学校(愛知県)  
 上尾市立大谷小学校(埼玉県) 甲賀市立油日小学校(滋賀県)  
 東京都豊島区立仰高小学校(東京都) 近畿大学附属広島高等学校・中学校福山校(広島県)  
 東京都板橋区立緑小学校(東京都) 廿日市市立宮園小学校(広島県)

## 👑 学校・園庭ビオトープ賞

学校・園庭ビオトープを積極的に維持管理・活用する取り組み 58校・園

### ★ 幼稚園・保育所・認定こども園

(学)高陽学園 平和幼稚園(北海道) (福)得雲会 青松こども園(愛知県)  
 認定こども園 青森中央短期大学附属第一幼稚園(青森県) 富田林市立大伴幼稚園(大阪府)  
 東海村立村松幼稚園(茨城県) (学)濱名山手学院 認定こども園 関西国際大学附属難  
 (学)キリスト愛児学園 認定こども園 キリスト愛児園 波愛の園幼稚園(兵庫県)  
 (茨城県) 西宮市立瓦木北保育所(兵庫県)  
 (福)藤寿会 しののめキッズパーク保育園(埼玉県) (学)雲雀丘学園 雲雀丘学園幼稚園(兵庫県)  
 新宿区立西戸山幼稚園(東京都) 認定こども園 菅内幼稚園(山口県)  
 江東区立つばめ幼稚園(東京都) 丸亀市立城坤幼稚園(香川県)  
 (福)砂原母の会 幼保連携型認定こども園 すなはら 日和香幼稚園(福岡県)  
 (東京都) 福岡教育大学附属幼稚園(福岡県)  
 (学)鶴来学園 鶴来第一幼稚園(石川県) (福)心耕福祉会 幼保連携型認定こども園 ひかりの森  
 (学)鶴来学園 鶴来第二幼稚園(石川県) こども園(宮崎県)  
 (福)幸生会 左京山保育園(愛知県) (学)押野学園 認定こども園 せんだい幼稚園(鹿児島県)  
 名古屋市立春田幼稚園(愛知県) 幼稚園型認定こども園 (学)相愛学園 相愛幼稚園(沖縄県)

### ★ 小学校・中学校・高校

潮来市立延方小学校(茨城県) 鳥羽市立安楽島小学校(三重県)  
 (学)佐藤栄学園 さとえ学園小学校(埼玉県) 大阪市立南田辺小学校(大阪府)  
 川口市立小谷場中学校(埼玉県) 豊中市立箕輪小学校(大阪府)  
 所沢市立清進小学校(埼玉県) 吹田市立佐竹台小学校(大阪府)  
 春日部市立宮川小学校(埼玉県) 吹田市立豊津第二小学校(大阪府)  
 上尾市立中央小学校(埼玉県) 八尾市立高安小中学校(大阪府)  
 越谷市立大袋東小学校(埼玉県) (学)瀧川学園 瀧川第二高等学校・瀧川第二中学校  
 千葉市立越智小学校(千葉県) (兵庫県)  
 千葉市立稲浜小学校(千葉県) 関西国際学園 初等部(兵庫県)  
 千葉県立船橋夏見特別支援学校(千葉県) 伊丹市立南小学校(兵庫県)  
 流山市立西深井小学校(千葉県) (学)雲雀丘学園 雲雀丘学園小学校(兵庫県)  
 (学)成城学校 成城中学校・成城高等学校(東京都) 兵庫県立篠山東雲高等学校(兵庫県)  
 東京都北区立梅木小学校(東京都) 広島県立祇園北高等学校(広島県)  
 (学)成蹊学園 成蹊小学校(東京都) 古賀市立舞の里小学校(福岡県)  
 (学)桐朋学園 桐朋学園小学校(東京都) 粕屋町立粕屋西小学校(福岡県)  
 福井市足羽中学校(福井県) 菊池市立七城中学校(熊本県)  
 名古屋市立豊田小学校(愛知県)

### ★ 大学

武庫川女子大学 環境共生学部(兵庫県)

# 全国学校・園庭 ビオトープコンクール 2025 概要

2025年(令和7年)

1月～ 広報開始

5/31<sup>土</sup> 応募締切

7～11月 補足調査(書類、現地訪問、リモート)

11/26<sup>水</sup> 中央審査委員会

2026年(令和8年)

2/8<sup>日</sup> 発表大会

## | 全国学校・園庭ビオトープコンクール2025 |

期間 2025年度(令和7年度)

対象 学校・園庭ビオトープに取り組む小・中・高校、大学、幼稚園、保育所、認定こども園など

主催 (公財)日本生態系協会

後援 文部科学省、環境省、国土交通省、農林水産省、こども家庭庁、ドイツ連邦共和国大使館、全国国公立幼稚園・こども園長会、全日本私立幼稚園連合会、(福)全国社会福祉協議会 全国保育協議会、(福)日本保育協会、(公社)全国私立保育連盟、NPO法人全国認定こども園協会、全国小学校理科研究協議会、全国小中学校環境教育研究会、(一社)日本保育学会、(公社)こども環境学会、(一社)日本環境教育学会、(公社)日本ナショナル・トラスト協会、日本ビオトープ管理士会

協賛 (株)アボック社、大和リース(株)、(一財)土屋環境教育振興財団



全国学校・園庭ビオトープコンクールは1999年から隔年で開催しており、今回で14回目(28年目)となりました。

今回も全国から多くの実践校・園が集いました。それらの学校・園の中には、ここ1～2年で設置された取り組みも多く見られます。

審査にあたっては、まず、学識経験者やビオトープ管理士などの専門家による現地訪問、リモートによるヒアリング、資料の提供などにより補足調査が行われました。この結果を踏まえ、中央審査委員会にて厳正な審査のうえ、上位5賞ほか各賞が決定しました。

2月に開催した発表大会では、秋篠宮皇嗣殿下と悠仁親王殿下のご臨席のもと、表彰式、上位5賞の受賞校・園の事例発表、受賞校・園によるポスター発

表が行われました。当日は約400名が来場し、交流を深めています。



## | 発表大会 |

日時 2026年(令和8年)2月8日(日) 13:00 ~ 16:00

会場 東京国立博物館 平成館 大講堂

・開会のあいさつ (公財)日本生態系協会会長 池谷奉文

・秋篠宮皇嗣殿下のおことば

・来賓のごあいさつ

文部科学大臣 松本洋平氏 代読:文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部長 蝦名喜之氏

環境大臣 石原宏高氏 代読:環境省自然環境局長 堀上勝氏

国土交通大臣 金子恭之氏 代読:国土交通省都市局長 中田裕人氏

ドイツ連邦共和国大使館首席公使 マルティン・フート 氏

・上位5賞の表彰式

・上位5賞受賞校・園の取り組み発表

・講評 元都留文科大学教授 高田研氏

日本女子大学名誉教授 田中雅文氏

・受賞校・園によるポスター発表



### 秋篠宮皇嗣殿下のおことば

本日、隔年で開催されている「全国学校・園庭ビオトープコンクール2025」の発表大会に、皆様とともに出席できましたことを大変嬉しく思います。そして、このたび各賞を受賞される方々に心よりお祝いを申し上げます。

野生の生き物やそれらが暮らす多様な自然環境は、私たち人類にとってもかけがえのないものであり、積極的に守っていく必要があります。世界各国では、生物多様性の保全・再生のため、様々な取り組みが行われていると聞いております。例えば、ドイツでは、近年の昆虫の激減を危惧し、2019年に連邦政府が「昆虫保護行動計画」を策定しました。また英国では、2021年に成立した法律で、イングランドのほぼ全ての開発事業において、開発前よりも生物多様性を増加させることが義務付けられています。

さらに、2021年に開催されたG7のコーンウォール・サミットなどの国際会議では、2030年までに生物多様性の損失を止め、回復に転じさせる、“Nature Positive”の方向性が示されました。その達成に向けて、地球に暮らす私たち一人ひとりが自然からの恩恵を理解し、自然への関心を深めていくことが大切

です。

その意味で、様々な国の教育・保育の現場が取り組んでいる学校や園庭のビオトープは、自然との触れ合いにとどまらず、自然との共存について考える大切な機会を提供してくれる場であると思います。このたびのコンクールにおける受賞事例においても、ビオトープを通じて地域の自然や生き物について考え、児童・生徒たちの視点で自然との共存について探究するなど、意義深い取り組みが行われていると伺っております。これらの取り組みが広く紹介されることは、持続可能な社会の実現に向けた人づくり・地域づくりに大きく寄与するものと申せましょう。

本コンクールも今回で14回目を迎え、学校や園にビオトープがあることの大切さが広く認識されるようになってきたことと思います。このことは、本活動に携わってこられた多くの方々のご尽力によるものであり、ここに深く敬意を表します。

おわりに、学校・園庭ビオトープの取り組みが、今後も日本各地で普及・継続し、自然とともに生きることの輪が広がっていくことを祈念し、私の挨拶といたします。

|ポスター発表 参加校・園|

- ・ (学)坂本学園 大地太陽幼稚園(北海道)
- ・ 上尾市立大谷小学校(埼玉県)
- ・ 流山市立西深井小学校(千葉県)
- ・ 東京都豊島区立仰高小学校(東京都)
- ・ (社福)砂原母の会 幼保連携型認定こども園 すなはら(東京都)
- ・ (学)平岡学園 平岡幼稚園(神奈川県)
- ・ 安曇野市立豊科南小学校(長野県)
- ・ (社福)得雲会 青松こども園(愛知県)
- ・ 甲賀市立油日小学校(滋賀県)
- ・ 西宮市立山口中学校(兵庫県)
- ・ 武庫川女子大学環境共生学部(兵庫県)
- ・ 廿日市市立宮園小学校(広島県)



# 寄付のご報告と お願い

## 寄付のご報告とお願い

今回コンクール開催にあたり、頑張っている実践に脚光を当てるという趣旨にご賛同いただいたのべ70名を越える皆様(含 企業・団体)から、総額約3,000,000円のご寄付をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

なお、日本生態系協会では、本コンクールを含め、学校・園庭ビオトープを普及させていくための寄付を、個人・企業・団体の皆様から引き続き募っています。協会webの寄付フォーム(カード可)、またはゆうちょ銀行の口座で承ります。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

### ■ゆうちょ銀行 寄付口座

口座番号 00170-2-266499

口座名義 公益財団法人日本生態系協会

\* 通信欄に「ビオトープ寄付」と明記してください。

\* 窓口でお振り込みの場合、振込手数料が免除されます。

寄付フォーム



## あたたかいご寄付を、ありがとうございました！

**NEW** Aboc 植物名ラベル  
スマートQRラベル™

**ソメイヨシノ**  
Cerasus x yedoensis 'Somei-yoshino'  
染井吉野  
バラ科

花の写真などはこちら  
花ページ000394

サイズ:120×50mm  
材質:耐候性樹脂(黒)  
表示:アボレーザー  
価格:¥2,400-(税抜)  
QRコード®からは植物の英語  
情報や写真も見られます！

**Aboc アボック社**  
環境サイン研究所

●本 社 0467-45-5110  
●東京営業所 03-6205-4456  
●大阪営業所 06-6942-8466



## 一般財団法人 土屋環境教育振興財団

岐阜県大垣市神田町2丁目55番地  
TEL: 0584-81-5118  
FAX: 0584-81-5141



埼玉県生態系保護協会 久喜支部 さま

## 次回のビオトープコンクールは 2027年度の開催です。 お楽しみに！

# コンクールのふりかえり

## — 補足調査を行った審査委員の主な助言等 —



### 審査観点① 生きもののくらしやすさ

地域の自然や生きものを調べて、そこからビオトープづくりが始まっているところが素晴らしい。

誘致したい生きものを決めて、その生息条件(住みかや食べ物、繁殖場所等)を踏まえて、整備や維持管理がなされるとよい。

完成後、生きもの(魚以外)をすぐに導入せずに、環境を整えて待つ姿勢があってもよい。人の手を介さずに誘致できた時はきっと感動する。

踏圧の影響が著しい。日常的には踏み込まず、生きものが安心していられる空間をつくることも大切。園児や児童から、そうした発想がでてくると素晴らしい。

### 審査観点② 子どもたちの主体的な関わり

誘致した(したい)生きものに居続けてもらうためにできることを、児童・生徒が探究できるとよい。

生きものとの触れ合いにとどまらず、園児が、遊び感覚で、生きもののためにビオトープづくりや維持管理に関わっていることが素晴らしい。自然と共生する心や考え方が醸成される機会になっている。



### 審査観点③ 活用

誘致した(したい)生きものを切り口に、学校ビオトープにおいて望む自然生態系の姿について考えてみるとよい。

学校ビオトープを題材に、地域の自然における様々な問題(外来種の問題等)の解決策を考える学習が素晴らしい。

園庭ビオトープは、「環境」の領域にとどまらず、「表現」「健康」「言語」「人間関係」など様々な領域での活用が可能と考える。園児の興味関心を踏まえて膨らませていけるとよい。

園児の主体性を大切に工夫、例えば表現遊びで、生きものの気持ちになった発言からの活動などがあると、園児の関わりも深くなると感じた。



今回のコンクールにおいて、協会内外の専門家から、補足調査を経て、学校・園庭ビオトープの取り組みに対する様々な助言が寄せられています。その一部をご紹介します。



## 審査観点④ 連携協働

保護者や地域の様々な方への発信や仲間づくりも、児童・生徒が試行錯誤しながらできるとよい。

ビオトープ管理士や地域の自然環境保全の市民団体、自然系の公共施設の専門職員など、相談できる仲間をつくれるとよい。

誘致した(したい)生きものがいる学校と、オンラインを活用して、取り組みや工夫などについて交流学习してはどうか。

学校・園庭ビオトープづくりを題材に、地域の様々な主体を巻き込むことができる。いろいろな方に遠慮なく相談してみてもどうか。



## 審査観点⑤ 持続的な体制

児童・生徒間において実施したことや思いを引継ぎができる機会を設けてはどうか。

園において、その年の発見を絵や言葉で表現し記録しておくこと園児はもとより、保育者や保護者も変化に気付くことに役立つ。



## 審査観点⑥ 地域への視点の広がり

誘致した(したい)生きものの地域における生息状況などを調べてみてはどうか。そこからその生きものの地域でのくらしやすさを考えるなど思考が広がるとよい。

ビオトープネットワークの大切さを踏まえて、学校ビオトープが設置されていない地域の他校に、学校ビオトープの魅力を伝える機会を設けてはどうか。

地域の自然についてとりまとめている、行政資料(環境基本計画やみどりの基本計画、生物多様性地域戦略等)を積極的に教材化することは興味深い。

誘致した(したい)生きものがくらしやすい地域の姿を考えて、保護者や地域に向けて発信していくとよい。

## GREEN INNOVATION 緑が、街を変えていく

- ・緑の都市空間づくり
- ・緑で再生・創生
- ・緑による猛暑対策



## 豊かな自然を次の世代へ 引き継いでいく

- ・生物生息空間の創出
- ・在来種緑化
- ・環境教育



## フレスポ御所野 ハチロウトープ (秋田県)

自然共生サイト認定  
(令和7年度第1回)



## ブランチ神戸学園都市 (兵庫県)

JHEP認証制度Aランク認証  
(第2回更新)

TSUNAG認定(第1号)

自然共生サイト認定  
(令和7年度第1回)



## 地域活性化のカギとなる にぎわい創出

- ・公園再生による都市再生
- ・コミュニティ交流の場
- ・SEGES「緑の認定」



## 安心安全な まちづくりのサポート

- ・雨水貯留浸透
- ・気候変動による自然災害への備え



## 自然と共生し、健やかな未来へ グリーンインフラで築くウェルビーイングな地域社会

詳しくは  
こちら▶



自然を有する多様な機能や特性をインフラ整備や土地利用に活用し、地域や環境のさまざまな課題の解決をはかるグリーンインフラ。大和リースは、建築や商業施設開発、リースや環境緑化など、多彩や事業を通じて培ったノウハウを複合し、公民連携やさまざまなパートナーとの協働を通じて、グリーンインフラによる持続可能なまちの未来の実現に貢献します。

大和リースは子どもたちが自然を守り、ふれあう、活動の輪を応援しています。



## 大和リース株式会社

本社 大阪市中央区農人橋2丁目1番36号 ビップビル 〒540-0011  
Tel 06-6942-8011 Fax 06-6942-8051

建設業許可番号・国土交通大臣許可(特-7)第5903号  
宅地建物取引業者免許番号・国土交通大臣(9)第3836号

[www.daiwalease.co.jp](http://www.daiwalease.co.jp)

2026年5月上旬に本社の移転を予定しています。

**新住所**

〒541-0041 大阪市中央区北浜4丁目1番1号 淀屋橋ゲートタワー 25階



2026年(令和8年)4月15日発行 ver.1  
〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル Tel.03-5951-0244 Fax.03-5951-2974  
Otowa Bldg.,2-30-20 Nishiikebukuro,Toshima-ku,Tokyo 171-0021 Japan



非  
売  
品